

3月17日(火)

私たちのインフルエンサー*

聖書朗読 民数記 16:28～50

人の目にはまっすぐに見える道がある。その道の終わりは死の道である。

箴言 16:25

民数記16章はホラー映画の場面のような印象を与えます。争いがあったり、地面が割れて人々を呑み込んだり、火事や伝染病がはびこりました。そして、一万四千七百人が一日で命を落としたのです。そのようなことを想像できますか。なぜこのようなことが起こったのでしょうか。

この惨劇の全ては、イスラエルの子らが間違った人々に耳を傾けたことで起こりました。彼らはぶつぶつ言ったり、文句を言ったり、権威を侮辱したりして、その態度は野火のように広がりました。モーセに聞いて神様の指示に従うより、民はコラ達の噂話や反抗の言葉に耳を傾けました。コラとその仲間たちはイスラエルの子らの間で“インフルエンサー”でした。(*編注:特定の分野において高い影響力を持ち、商品の選択や行動に影響を与える人物のこと)

最近、SNSでインフルエンサーのことをよく聞きます。私は自問しなければいけません。私は誰の言うことを聞くのか。私のインフルエンサーは誰か。神の御言葉から質問の答えを探し学ぶのか。それとも、FacebookやTikTokやYouTubeや他の情報源を見るのか。流行の話題に従うのか。それとも聖書に根差すのか。答えを探すのに、どこで時間の大半を費やしているでしょうか。

イスラエルの子らの間違いを繰り返さないように気を付けましょう。

讚美歌第二編 80 み言葉をください

祈り 父よ、心を守れるようにお助けください。盾で私を囲み、よくないことをさせようとする人々からお守りください。あなたに対して罪を犯さないように、あなたのみことばを心に秘められますように。イエス様の御名によって、アーメン。

テネシー州 ハンダーソン / ローズマリー・マックナイト

3月18日(水)

思い起こすもの

聖書朗読 ヨシュア記 4:1～24

私は、主のみわざを思い起こそう。まことに、昔からのあなたの奇しいわざを思い起こそう。

詩篇 77:11

歴代の主の食卓に使われるテーブルにはこの言葉が良く刻まれています。『わたしを覚えて、これを行いなさい。』その言葉はいつもふさわしいです。

神様のみわざを思い起こすことは聖書中に現れるテーマです。詩篇78篇が思い出させるように、『彼らは神の力をも、神が敵から贖い出してくださった日をも、覚えてはいなかった。』(詩78:42)

旧約聖書において、主はエジプトの奴隷であったイスラエルの民を救い出された時のことを何度も思い起こすようにと言われました。そして、神様の御手による救出と、かもいと二本の門柱に塗られた羊の血を毎年思い出すために、過越の祭りをお与えになりました。

イスラエルの民がヨルダン川を渡り、約束の地に入った時、部族ごとに川の中央から石を一つずつ宿営地に背負って来て、記念の柱を据えました。子どもたちが柱を見て、それらの石の意味を尋ねることによって、神様の御手のわざが忘れられないようにしたのです。

神様が代々成し遂げられたことを思い起こすことにより、私たちは信仰を確かなものとして保ち続けることができます。神様が私たちを助け、励まし、救うためにしてくださったことを日常的に思い起こすことができますように。そして、神様が今までなさった偉大な出来事を人々に分かち合うことを忘れることがありませんように。

讚美歌第二編 191 主のまことはくしきかな

祈り 最愛の主よ、貴方のみめぐみによる数え切れないみわざによって、日々貴方のご性質を思い起こします。全宇宙に貴方のような方はおられません。貴方だけが大きいなるみわざをなされる神であられるからです。イエス様の御名によって、アーメン。

オクラホマ州 エドモンド / リン・マックミラン

3月19日(木)

未 完 成 の 課 題

聖書朗読 士師記 6:7～16

すると、主は彼に向かって仰せられた。「あなたのその力で行き、イスラエルをミデヤン人の手から救え。わたしがあなたを遣わすのではないか。」
士師 6:14

机の引き出しを片づけていて、何年間も見えていないファイルフォルダーを見つけました。その中に昔書き始めた簡単な物語がありました。すぐに、はまってしまい、2章を一気に読みました。それから、いきなり説明や結末もなくその物語は終わってしまいました。なんで最後まで書かなかったの、コニーと自問しました。

机の掃除に戻りましたが、なぜ物語を完結させなかったのかという自分への問いをぬぐい去ることはできませんでした。私は、自分自身にその物語を完結させなかったことを責め続けました。馬鹿馬鹿しいですね。現在のことに集中しないで、過去の未完成の課題にこだわり、その日の尊い時間を無駄にしまいました。正直に言うと、私がそういう思いになったのは初めてではありませんでした。

私だけではないと思います。私達は、ギデオンのように、「どうやって世の中を変えられるのか。私は経験も浅過ぎるし、最も器ではない者のように感じる」と思い兼ねません。でも、ギデオンと同じように、私たちは、神様が既に私達の個人的な“エジプト”から買い戻して下さったことを忘れてはいけません。神様は私達とともにおられ、ある目的のために召されています。

ですから、今度、自分の能力を疑ったり、過去の失敗で自虐的なことを考え始めたりしたら、思い出しましょう。『こういうわけで、もしあなたがたが、キリストとともによみがえらされたのなら、上にあるものを求めなさい。そこにはキリストが、神の右に座を占めておられます。』(コロサイ 3:1)

讚美歌第二編 1 こころを高くあげよう

祈 り 主よ、私にはあなたの目に写る私のイメージは見えません。過去の失態を思い出すときに、あなたの慈しみを思い出させてください。イエス様の名によって、アーメン。

オクラホマ州 タレクア / コニー・エドワーズ

3月20日(金)

私たちの願うところ、思うところのすべてを越えて

聖書朗読 サムエル記 第一 1:1～11

どうか、私たちのうちに働く力によって、私たちの願うところ、思うところのすべてを越えて豊かに施すことのできる方に、
エペソ 3:20

中央アメリカに住んでいるローラという高齢の女性を知っています。彼女は夫も子どももなく、親戚からも政府からも支援を受けていません。教会と数名の友達の助けがなければ、衣食にも事を欠くことになる状態です。

ハンナはローラと似たような状況で人生の終わりを迎え兼ねませんでした。聖書の時代には、子どもは女性にとって愛情と尊敬を得るためだけではなく、“社会的な保障”のためにも必要でした。もしエルカナに先立たれたら、ハンナは恐らく貧困に陥ったでしょう。

彼女が主に祈り、男の子を授けてくださったら、その子の一生を主におさきげすと誓いを立てたとき、なんと深い信仰を示したことでしょう。I サムエル2:21で、ハンナが後に五人の子供を産んだことがわかります。誓いを立てた時点では知らなかった、未来の贈り物です。

ハンナは誓いを守って、息子サムエルを主の宮に連れて行ったので、彼は神様の御前で育ち、預言者として立てられました。その後、神様はサムエルを、イスラエルの最も偉大な王ダビデを導くために、用いられました。

私たちの祈りに対する神様の答えは、時に私たちのニーズや期待を遥かに超えます。

讚美歌第二編 97 たえにも とうとき

祈 り 主よ、私たちの必要を満たし、私たちの願望の多くを叶え、想像できないほど豊かに与えてくださっていることを感謝します。私たちがよく気付くことができるようにしてください。そして感謝することにおいて成長できますように。愛する御子イエス様の御名により、アーメン。

アーカンソー州 クイットマン / シンシア・サザリン

3月21日(土)

神様に聞く

聖書朗読 サムエル記 第一 3:1~10

神は私たちを救い、また、聖なる招きをもって召してくださいましたが、それは私たちの働きによるのではなく、ご自身の計画と恵みによるのです。 IIテモテ 1:9

あなたはどれくらい人の話に耳を傾けることが上手でしょうか。誰かが話しているとき、その人の言うことに全面的に集中していますか。それとも既に自分の返答を用意しているのでしょうか。良い聞き手は単に言葉を聞く以上のことをします。一緒にいてくれて、十分話を聞いて、その話に答える時が来ると、その返答から、今まで話したことを理解してくれたことがわかります。

良い聞き手の例はサムエルの人生に見られます。サムエルが少年の頃、母ハンナは、主にお仕えする指導をしてもらうために、彼を祭司エリに預けました。ある夜、神様はサムエルを呼ばれました。(Iサムエル3:4)最初、サムエルはエリが呼んでいると思いました。でも、エリは主が呼んでおられるということを悟ったとき、サムエルに『お話しください。しもべは聞いております。』(Iサムエル3:10)と答えるように指導しました。神様が再び呼ばれたとき、サムエルはエリが教えたように答えました。サムエルは神様からエリの家の子ばきに関するメッセージを頂いたのです。

私たちは、神様が聖書を通して語られるのを聞くとき、サムエルと同じ態度で聞く必要があります。心を開いて、聞くだけでなく、神様が示されることを実行する準備がされていなければなりません。私たちが聖書を勉強するとき、熱心に神様の真実を受け入れ、日々の献身の中でそれを活かしましょう。

讚美歌第二編 154 あめつち造りし

祈り 最愛の主よ、あなたのみこころを人類に明かしてください。私の心と頭でみことばを受け取れるようにして下さい、みこころにかなう者にしてください。常にみことばに聞き、あなたが私に語ってくださることを聞けるようにして下さい。イエス様の御名によって。アーメン。

テネシー州 ナッシュビル / ポール・ダレティ

3月22日(日)

中途半端な従順さ

聖書朗読 サムエル記 第一 15:13~26

そこで、イエスは彼に言われた。『心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』 マタイ 22:37

神様のみこころにかなっていないときにも、かなっているように自分を感じさせ、自分の行為を正当化するように神様の命令を再解釈することは全然難しくありません。

お母さんにベッドを整えるように言われた思い出があるでしょう。私たちはその命令を実行しました。但し、お母さんが入って来て、自分ではお母さんの言う通りにやったと思い込んでいたのを正されるはめになります。「ちゃんとベッドを整えたのに。」と言うと、お母さんは「いいえ。枕は反対側にあるし、シーツが床を引きずっているでしょ。」と答えます。

幼い娘がドアノブに保湿クリームを塗りたくった時みたいです。「こんな汚いことやったのはあなたなの？」と訊かれて、彼女は「汚くないもん。」と答えました。彼女の視点からすると芸術でした！しかし、それはかなりべとべとで汚かったです。

私達の振る舞いはサウルのそれに似ていることがよくあるかもしれません。彼は主に対して全ての命令を実行したと主張しましたが、問題は、彼が従順さを自分の基準で再定義したことでした。

自分の都合に合わせて神様の命令を再定義するとき、私たちはもはや神様に従っているとは言えません。自分に従っているのです。サウルの時にはうまく行かなかったように、私たちにもうまくいくことはないのです。

讚美歌 365 わが主イエスよ

祈り 聖なる父よ、あなたの指示に完璧に従うことができない私を赦してください。自分の不従順さを正当化するために言い訳をする私を赦してください。あなたのご栄光が見えるよう私の目を上げさせてください。そして、完璧にあなたに従う心を与えてください。イエス様の御名によって、アーメン。

アリゾナ州 ピオリア / ペニーF・ニコルズ